

平成28年

# 新入社員 意識調査

平成28年6月



ホームページ・アドレス  
<http://www.a-bank.jp/>

# も く じ

はじめに .....	1
調査要領 .....	1
調査結果の概要 .....	2
Q 1. 会社を選ぶ際の重視項目 .....	3
Q 2. 県内就職の理由 .....	4
Q 3. 社会人としての不安 .....	5
Q 4. 社会人として大切なもの .....	6
Q 5. 昇給・昇格の基準について .....	7
Q 6. 今の会社でいつまで働きたいか .....	8
Q 7. 将来結婚した場合の共働きについて.....	9
Q 8. 『会社・仕事』と『家庭・生活』のどちらを重視するか .....	10
Q 9. 『ゼネラリスト』と『スペシャリスト』のどちらを目指すか ...	11
Q10. 上司に求めるもの .....	12
Q11. 理想の上司を有名人にたとえると .....	13
Q12. 初月給の使いみちは .....	14
Q13. 仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術は .....	15
Q14. 普段、情報源として利用するツールは .....	16
Q15. 自分をPRする言葉は .....	17
社会人となり、改めて感じることは（自由回答） .....	18

# はじめに

今年も多くの新入社員が期待と不安を胸に、社会人としての第一歩を踏み出しました。

新入社員は地域社会の将来を担う大切な財産です。厳しい就職戦線をくぐり抜け、晴れて社会の一員となった新入社員はどのような意識を持って日常の仕事に取り組んでいるのでしょうか。

本調査は、昭和 52 年から新入社員の意識、考え方を調査し、その結果をまとめて公表しているものです。これからの社内教育、研修等の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、本調査に際しましてご協力いただきました新入社員の方々に厚くお礼申し上げます。

## 調査要領

- 方 法                    アンケート方式
- 対 象 者                県内事業所 平成 28 年度新入社員 220 名
- 実施時期                平成 28 年 4 月
- 回答者内訳

	男性		女性		合計	
	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)
高 校 卒	59	26.8	57	25.9	116	52.7
専門学校卒	23	10.5	12	5.5	35	15.9
短 大 卒	3	1.4	6	2.7	9	4.1
大 学 卒	39	17.7	20	9.1	59	26.8
大学院卒	0	0.0	1	0.5	1	0.5
合 計	124	56.4	96	43.6	220	100.0

※高校卒には中学卒（男性）1名を含む

※本調査は、青森銀行のホームページ(<http://www.a-bank.jp/>)にて公開しております。

.....  
【本件に関する照会先】  
.....  
一般財団法人 青森地域社会研究所  
.....  
担 当： 野 里  
.....  
TEL 017-777-1511  
.....

# 調査結果の概要

## 1. 就職にあたって

- 会社選びのポイントは「仕事が自分に合っている」がトップ、以下「業績が安定している」、「社会的貢献度が高い」などの順となった。
- 県内就職の理由は「地元のほうが生活が楽だから」がトップ、以下「地元のために自分の力を発揮したい」、「青森県が好きだから」などと続いた。

## 2. 社会人として

- 就職して不安に感じることは、「仕事についていけるか」がトップ、「職場の人間関係」が2位となり、この上位2項目で全体の8割を占めた。
- 社会人として大切なものは、「責任感」がトップ、僅差で「コミュニケーション能力」が2位となり、「協調性」、「応用力・適応力」などと続いた。
- 昇給・昇格の基準は、「能力・業績が重視される型」が調査開始以来初の単独トップとなった。
- 今の会社では「定年まで働きたい」がトップとなった。
- 将来結婚した場合の共働きについては「共働きへの抵抗はない」とする割合が全体の約9割を占めた。
- 「会社・仕事」よりも「家庭・生活」を重視したいとする割合は全体の8割を占めた。
- 幅広い業務をこなす「ゼネラリスト」志向と、専門分野に秀でた「スペシャリスト」志向の割合はほぼ同じであった。

## 3. 上司について

- 男性上司には、「信頼感」、「指導力」など力強さ、女性上司には「優しさ」、「明るさ」、「信頼感」などを求めている。
- 理想の上司を有名人にたとえると、男性上司では「松岡修造」、女性上司では「天海祐希」がトップに選ばれた。

## 4. 初月給の使い道は

- 初月給の使いみちは、「預金をする」がトップ、次いで「家族へのプレゼント」、「自分の欲しいものを買う」などの順となった。

## 5. 自分自身のことについて

- 仕事をするにあたって、身につけたい知識・技術は「専門的資格」がトップ、次いで「語学力」、「情報処理に関する知識・技能」などの順となった。
- 普段、情報源として利用するツールは「スマートフォン・携帯電話」が約9割を占めた。
- 自分をPRする言葉は、「明るい」がトップ、次いで「まじめ」、「楽観的」などの順となった。

## Q1. 会社を選ぶ際の重視項目

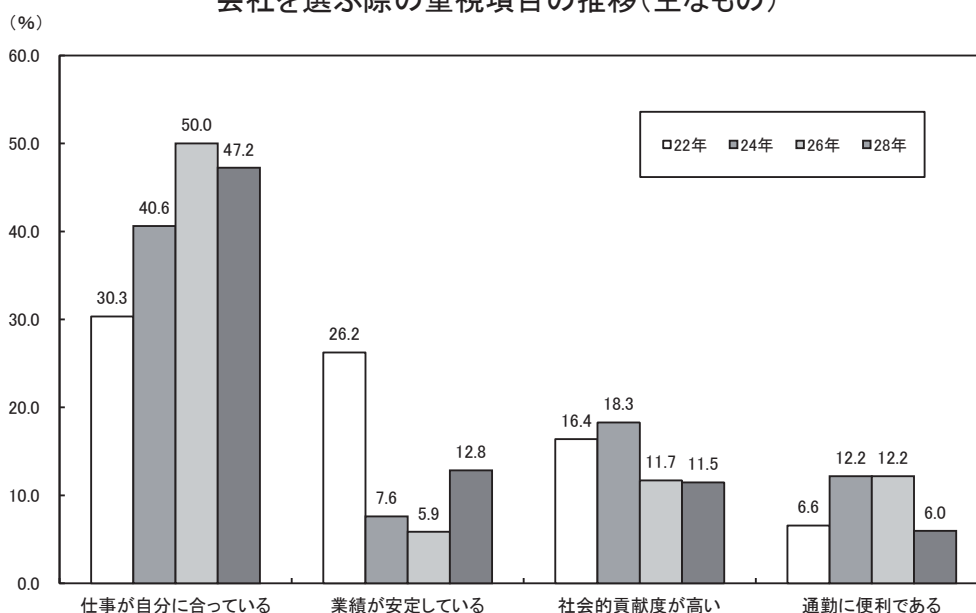
～「仕事が自分に合っている」がトップ、仕事との適正を重視～

今年の新入社員が、就職する会社を選ぶにあたって重視した項目を尋ねたところ、「仕事が自分に合っている」が 47.2%でトップとなり、次いで「業績が安定している」が 12.8%、「社会的貢献度が高い」が 11.5%、「通勤に便利である」が 6.0%などと続いた。「自分に合っている」の割合は前回調査から幾分減少したものの、高い水準を維持しており、仕事との適正を重視している状況がみられた。また、「業績が安定」は前回の 4 位から 2 位にランクアップした。

男女別にみると、男性は「自分に合っている」(49.6%)、「社会的貢献度」(13.0%)の割合が女性に比べ高かった。一方、女性は「業績が安定」(14.7%)、「通勤に便利」(7.4%)、「福利厚生面の充実度」(8.4%)が男性に比べ高かった。

学卒別にみると、それぞれトップは「自分に合っている」となり、専門学校・短大卒(52.3%)が最も高い割合を示した。また、専門学校・短大卒は「通勤に便利」(9.1%)、「有名で会社の規模も大きい」(11.4%)、大学・大学院卒では「会社に将来性がある」(10.0%)が他に比べて高い割合となるなど、学卒別に幾分ばらつきがみられた。

会社を選ぶ際の重視項目の推移(主なもの)



会社を選ぶ際の重視項目

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
仕事に自分に合っている	① 49.6	① 44.2	① 47.4	① 52.3	① 43.3	① 47.2
業績が安定している	③ 11.4	② 14.7	② 14.9	② 11.4	③ 10.0	② 12.8
社会的貢献度が高い	② 13.0	③ 9.5	③ 11.4	4.5	② 16.7	③ 11.5
通勤に便利である	4.9	7.4	5.3	③ 9.1	5.0	6.0
有名で会社の規模も大きい	6.5	4.2	3.5	② 11.4	5.0	5.5
会社に将来性がある	6.5	4.2	4.4	2.3	③ 10.0	5.5
福利厚生面の充実度	3.3	8.4	7.0	4.5	3.3	5.5
給料が高い	0.8	4.2	3.5	0.0	1.7	2.3
その他	4.1	3.2	2.6	4.5	5.0	3.7

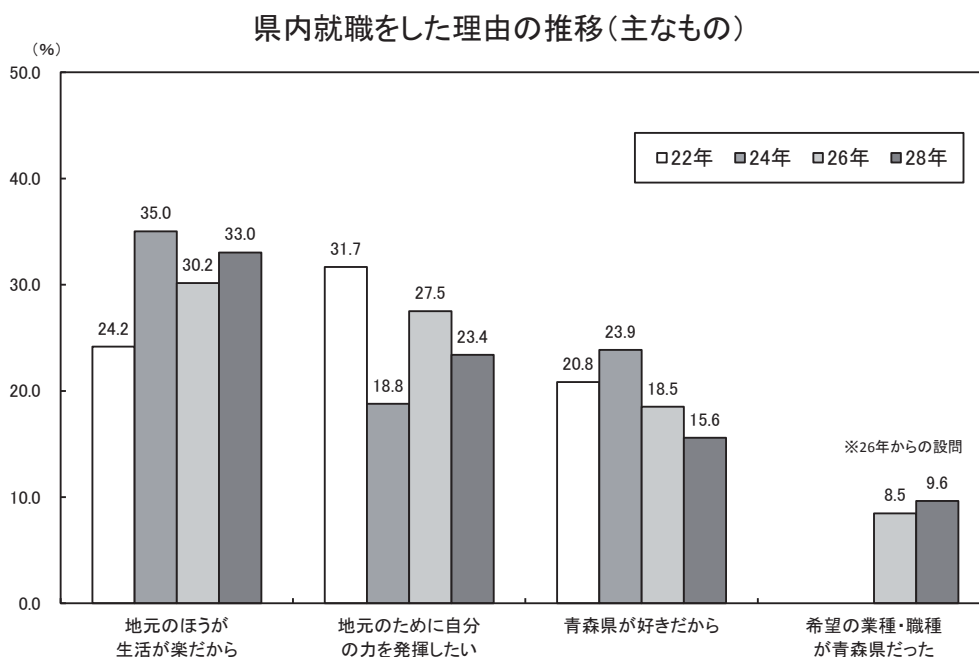
## Q2. 県内就職の理由

～「地元のほうが生活が楽だから」がトップ、生活を重視～

県内就職をした理由は、「地元のほうが生活が楽だから」が 33.0%でトップとなり、就職後の生活を重視する状況がみられた。次いで「地元のために自分の力を発揮したい」が 23.4%、「青森県が好きだから」が 15.6%、「希望の業種・職種が青森県だった」が 9.6%などと続いた。前回調査と比べると、「生活が楽だから」の割合が増加する一方で、「自分の力を発揮したい」、「青森県が好きだから」は減少した。

男女別にみると、男女とも「生活が楽だから」がトップとなった。また、男性は「自分の力を発揮したい」(26.0%)の割合が高かった。

学卒別にみると、高校卒は「自分の力を発揮したい」(18.3%)の割合が他に比べ低かった。専門学校・短大卒は「生活が楽だから」(46.5%)の割合が高かった。大学・大学院卒は「地元のために力を発揮したい」(30.0%)がトップとなり、「青森県が好きだから」(20.0%)が 2 位、「地元の生活が楽」(18.3%)は 3 位となった。



県内就職の理由

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
地元のほうが生活が楽だから	① 30.1	① 36.8	① 35.7	① 46.5	③ 18.3	① 33.0
地元のために自分の力を発揮したい	② 26.0	② 20.0	② 18.3	② 27.9	① 30.0	② 23.4
青森県が好きだから	③ 17.1	③ 13.7	③ 16.5	③ 7.0	② 20.0	③ 15.6
希望の業種・職種が青森県だった	11.4	7.4	10.4	③ 7.0	10.0	9.6
家の事情でやむをえず	9.8	8.4	8.7	4.7	13.3	9.2
ただ何となく	3.3	7.4	7.8	4.7	0.0	5.0
その他	2.4	6.3	2.6	2.3	8.3	4.1

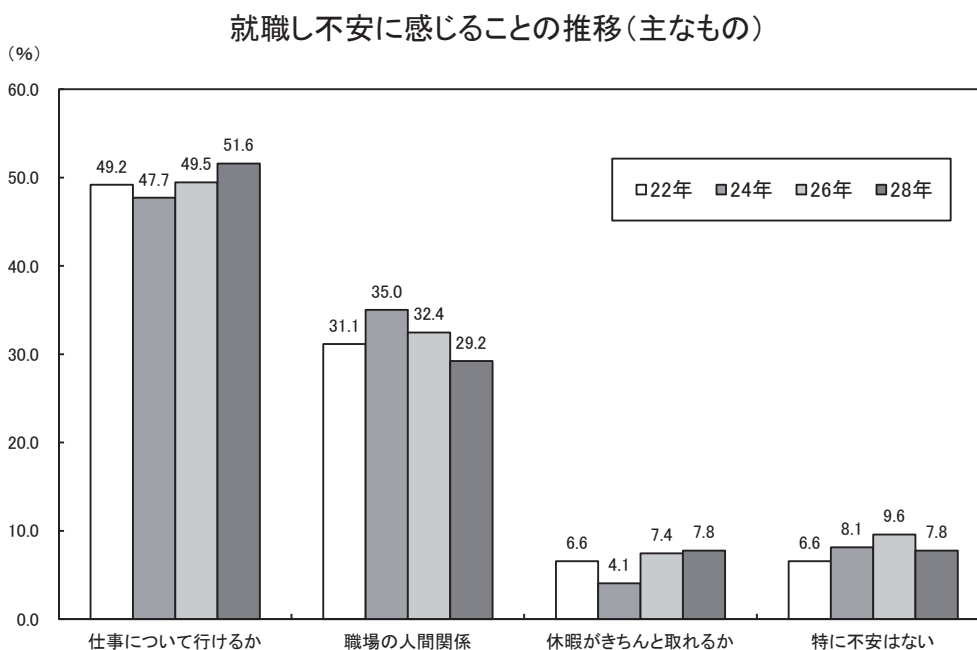
### Q3. 社会人としての不安

～仕事の内容、対人関係、コミュニケーションへの不安が8割～

社会人としてスタートを切った新入社員が抱えている不安は、「仕事について行けるかどうか」が51.6%でトップとなった。次いで「職場の人間関係」が29.2%と上位2項目で全体の8割を占め、仕事の内容への不安とともに、対人関係、コミュニケーションに対する不安が大半を占めた。また、「休暇がきちんと取れるか」と「特に不安はない」が同率(7.8%)で3位となった。

男女別にみると、「仕事について行けるか」は男女ともトップであったが、男性(54.8%)は5割を超えた。女性は「職場の人間関係」(32.6%)の割合が男性に比べ高かった。

学卒別にみると、高校卒は「仕事について行けるか」(40.9%)と「職場の人間関係」(40.0%)がほぼ同率となった。専門学校・短大卒、大学・大学院卒は「仕事について行けるか」がともに6割を超え、「職場の人間関係」はともに2割を下回った。



就職し不安に感じること

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
仕事について行けるか	① 54.8	① 47.4	① 40.9	① 63.6	① 63.3	① 51.6
職場の人間関係	② 26.6	② 32.6	② 40.0	② 15.9	② 18.3	② 29.2
休暇がきちんと取れるか	7.3	③ 8.4	③ 8.7	③ 6.8	6.7	③ 7.8
特に不安はない	③ 8.1	7.4	7.8	③ 6.8	③ 8.3	③ 7.8
希望の仕事が任されるか	3.2	2.1	1.7	③ 6.8	1.7	2.7
その他	0.0	2.1	0.9	0.0	1.7	0.9

## Q4. 社会人として大切なもの（2項目まで選択）

～「責任感」がトップ、「コミュニケーション能力」が僅差で2位～

社会人として大切だと思うことは、「責任感」が41.8%でトップとなった。次いで「コミュニケーション能力」が41.4%、「協調性」が30.0%、「応用力・適応力」が25.9%などと続いた。「責任感」は調査項目開始の昭和56年以降、毎回トップに挙げられている。また、「コミュニケーション能力」は僅差で2位となり、対人関係も同様に重視している状況がみられた。

男女別でみると、女性は「責任感」(45.8%)の割合が男性に比べ高かった。一方、男性は「応用力・適応力」(30.6%)が女性に比べ高かった。

学卒別にみると、順位、割合でばらつきがみられた。トップとなったのは高校卒が「コミュニケーション能力」(44.8%)、専門学校・短大卒が「責任感」(50.0%)、大学・大学院卒が「協調性」(40.0%)であった。その他の項目では、「応用力・適応力」では高校卒(31.9%)、「辛抱強さ」では高校卒(20.7%)、「自己啓発・向上意欲」では専門学校・短大卒(20.5%)、大学・大学院卒(18.3%)の割合の高さが目立った。

社会人として大切なもの

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
責任感	② 38.7	① 45.8	② 44.0	① 50.0	③ 31.7	① 41.8
コミュニケーション能力	① 41.1	② 41.7	① 44.8	② 43.2	② 33.3	② 41.4
協調性	③ 30.6	③ 29.2	③ 23.3	③ 34.1	① 40.0	③ 30.0
応用力・適応力	③ 30.6	19.8	③ 31.9	15.9	21.7	25.9
辛抱強さ	15.3	18.8	20.7	6.8	16.7	16.8
自己啓発・向上意欲	12.9	16.7	10.3	20.5	18.3	14.5
健康	11.3	6.3	7.8	11.4	10.0	9.1
自発性	4.0	7.3	1.7	9.1	10.0	5.5
その他	0.8	1.0	0.9	0.0	1.7	0.9

22年		24年		26年		28年	
責任感	① 60.3	責任感	① 52.3	責任感	① 47.1	責任感	① 41.8
協調性	② 40.5	協調性	② 38.6	コミュニケーション能力	② 41.3	コミュニケーション能力	② 41.4
応用力	③ 25.6	応用力	③ 28.9	協調性	③ 24.3	協調性	③ 30.0
辛抱強さ	④ 21.5	辛抱強さ	④ 23.4	応用力・適応力	④ 24.3	応用力・適応力	④ 25.9
自己啓発	⑤ 19.0	自己啓発	⑤ 21.8	自己啓発・向上意欲	⑤ 15.9	辛抱強さ	⑤ 16.8
自発性	⑥ 9.9	健康	⑥ 11.2	辛抱強さ	⑥ 15.3	自己啓発・向上意欲	⑥ 14.5
健康	⑦ 9.1	自発性	⑦ 7.6	健康	⑦ 10.1	健康	⑦ 9.1
その他	⑧ 1.7	その他	⑧ 0.0	自発性	⑧ 6.3	自発性	⑧ 5.5
				その他	⑦ 0.0	その他	⑦ 0.9



## Q5. 昇給・昇格の基準について

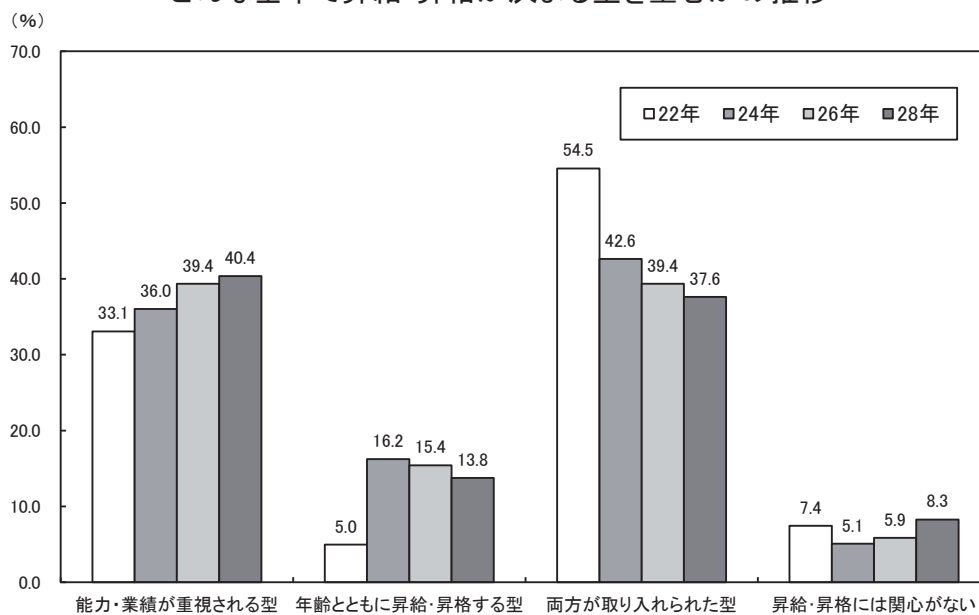
～「能力・業績が重視される型」が初の単独トップ～

新入社員が望んでいる昇給・昇格の基準は、「能力・業績が重視される型」が 40.4% でトップ、次いで「能力主義と年功序列の両方が取り入れられた型」が 37.6%、「年齢とともに昇給・昇格する型」が 13.8%、「昇給・昇格には関心がない」が 8.3%の順となった。「能力・業績が重視される型」の割合は増加傾向にあり、調査項目開始の昭和 57 年以降、初めて単独トップとなった。一方、「両方が取り入れられた型」は減少傾向が続いている。

男女別にみると、男性は「能力・業績が重視される型」(41.8%)の割合が高く、女性は「両方が取り入れられた型」(39.6%)が高かった。

学卒別にみると、高校卒、専門学校・短大卒は「能力・業績が重視される型」がトップとなり、大学・大学院卒は「両方が取り入れられた型」がトップとなった。また、高校卒は「年齢とともに昇給・昇格する型」(15.8%)の割合が他に比べ高い割合となった。

どんな基準で昇給・昇格が決まる型を望むかの推移



どんな基準で昇給・昇格が決まる型を望むか

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
能力・業績が重視される型	① 41.8	② 38.5	① 41.2	① 47.7	② 33.3	① 40.4
年齢とともに昇給・昇格する型	13.9	13.5	15.8	13.6	10.0	13.8
両方が取り入れられた型	② 36.1	① 39.6	② 35.1	② 29.5	① 48.3	② 37.6
昇給・昇格には関心がない	8.2	8.3	7.9	9.1	8.3	8.3

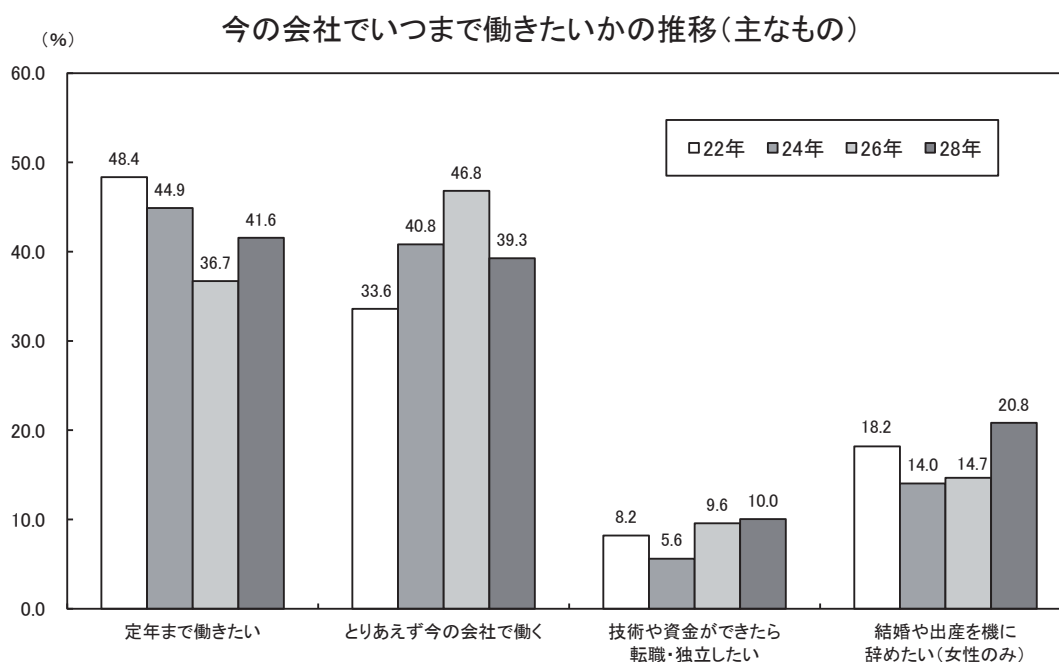
## Q6. 今の会社でいつまで働きたいか

～「定年まで働きたい」がトップ～

今の会社への定着度については、「定年まで働きたい」が 41.6%でトップ、次いで「とりあえず今の会社で働く」が 39.3%、「技術や資金ができれば転職・独立したい」が 10.0%などと続いた。「定年まで働きたい」は前回調査に比べ 4.9 ポイント増加し、再びトップとなった。

男女別にみると、男性は「定年まで働きたい」(55.3%)が女性を 31.3 ポイント上回った一方、女性は「とりあえず今の会社」(43.8%)がトップとなった。また、女性のみを対象とした「結婚や出産を機に辞めたい」(20.8%)とする割合は、前回調査に比べ 6.1 ポイント増加した。

学卒別にみると、高校卒は全体とほぼ同様の傾向となった。専門学校・短大卒は「とりあえず今の会社」(34.1%)の割合が他に比べ低く、「転職・独立したい」(13.6%)、「結婚したら辞めたい」(11.4%)は高い割合となった。大学・大学院卒は「とりあえず今の会社」(43.3%)がトップとなった。



今の会社でいつまで働きたいか

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
定年まで働きたい	① 55.3	② 24.0	① 42.6	① 40.9	② 40.0	① 41.6
とりあえず今の会社で働く	② 35.8	① 43.8	② 39.1	② 34.1	① 43.3	② 39.3
技術や資金ができれば 転職・独立したい	③ 8.9	11.5	③ 9.6	③ 13.6	③ 8.3	③ 10.0
結婚したら辞めたい	0.0	③ 14.6	4.3	11.4	6.7	6.4
子供ができれば 辞めたい	0.0	6.3	4.3	0.0	1.7	2.7
参考: 結婚や出産を機に 辞めたい(女性のみ)		20.8	8.7	14.3	8.5	20.8

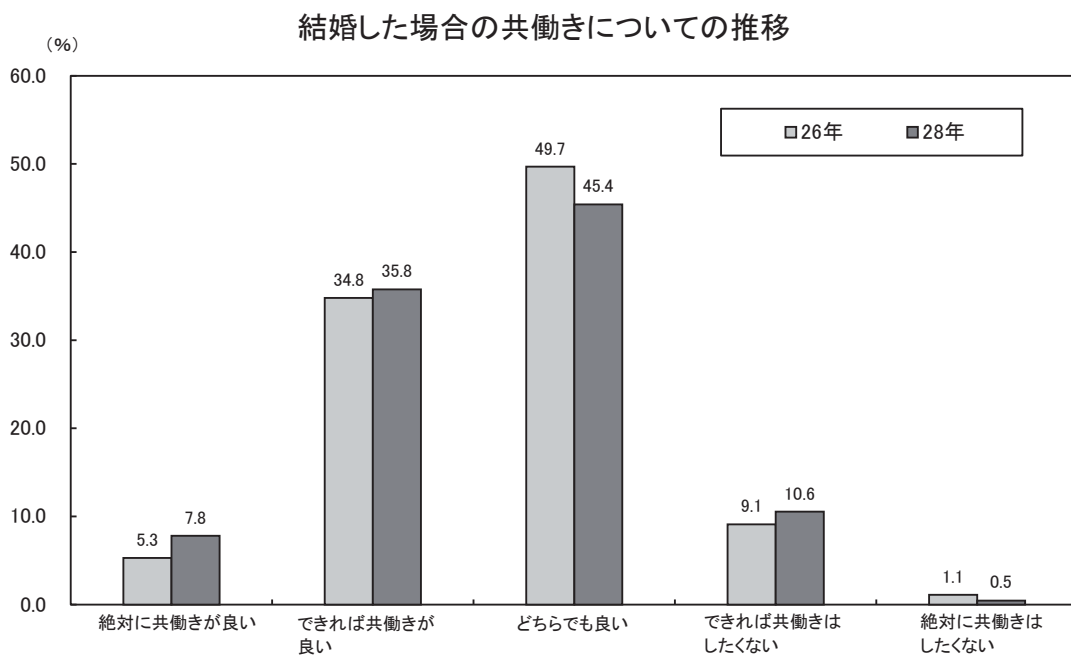
## Q7. 将来結婚した場合の共働きについて

～約 9 割が共働きへの抵抗感はない～

将来結婚した場合、共働きをすることについての考えを尋ねたところ、「絶対に共働きが良い」が 7.8%、「できれば共働きが良い」が 35.8%、「どちらでもよい」は 45.4%となった。一方、「できれば共働きはしたくない」は 10.6%、「絶対に共働きはしたくない」は 0.5%となった。前回調査に比べ大きな変化はなく、程度の差はあるものの共働きへの抵抗はないとする割合は全体の約 9 割を占めた。

男女別にみると、女性は「絶対に共働きが良い」(13.7%)、「できれば共働きが良い」(41.1%)の割合が男性に比べ高かったが、「できれば共働きはしたくない」(14.7%)の割合も高めであった。一方、男性は「どちらでもよい」(56.9%)が女性を 26.4 ポイント上回った。

学卒別にみると、高校卒は「できれば共働きはしたくない」(13.0%)の割合が高かった。大学・大学院卒は「できれば共働きが良い」(45.0%)が高かった。



結婚した場合の共働きについて

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
絶対に共働きが良い	3.3	13.7	9.6	4.7	6.7	7.8
できれば共働きが良い	② 31.7	① 41.1	② 31.3	② 34.9	① 45.0	② 35.8
どちらでもよい	① 56.9	② 30.5	① 45.2	① 51.2	② 41.7	① 45.4
できれば共働きはしたくない	7.3	14.7	13.0	9.3	6.7	10.6
絶対に共働きはしたくない	0.8	0.0	0.9	0.0	0.0	0.5

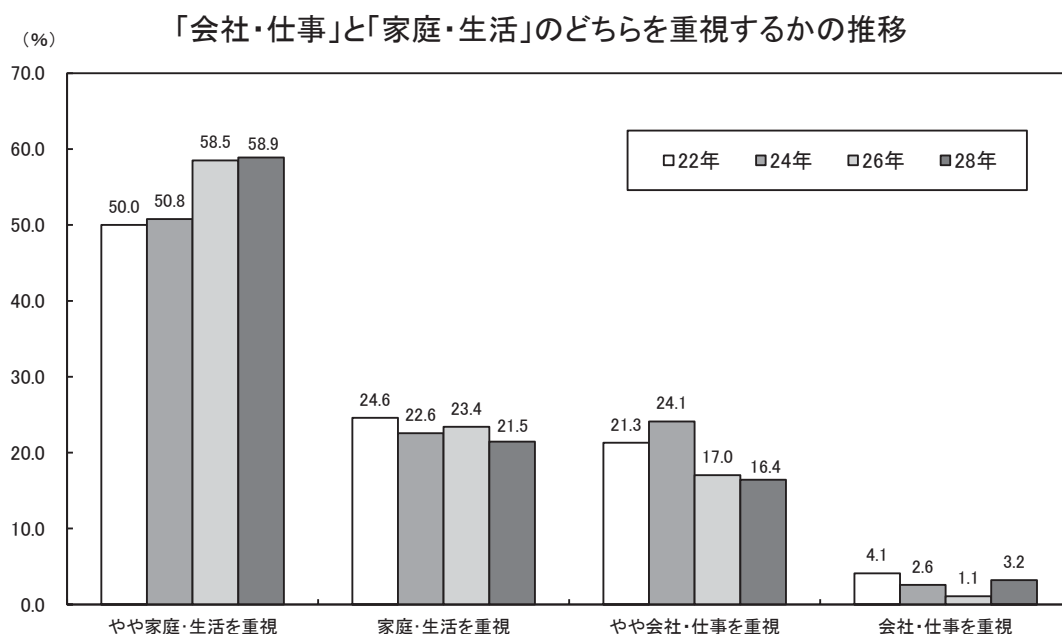
## Q8. 「会社・仕事」と「家庭・生活」のどちらを重視するか

～前回同様「家庭・生活」重視が8割を占める～

目指す社員像は、「会社・仕事重視型」か「家庭・生活重視型」かを尋ねたところ、「やや家庭・生活を重視」が58.9%でトップ、次いで「家庭・生活を重視」が21.5%、「やや会社・仕事を重視」が16.4%、「会社・仕事を重視」が3.2%の順となった。「家庭・生活重視型」の割合は全体の8割を占め、前回の調査とほぼ同じ結果となった。

男女別にみると、男女とも「やや家庭・生活を重視」がトップとなったが、女性(64.6%)は男性を10.1ポイント上回った。

学卒別にみると、それぞれ全体とほぼ同様の結果となったが、高校卒は「家庭・生活を重視」(18.3%)の割合が幾分低かった。



「会社・仕事」と「家庭・生活」のどちらを重視するか

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
やや家庭・生活を重視	① 54.5	① 64.6	① 60.0	① 59.1	① 56.7	① 58.9
家庭・生活を重視	② 22.8	② 19.8	② 18.3	② 25.0	② 25.0	② 21.5
やや会社・仕事を重視	17.9	14.6	16.5	15.9	16.7	16.4
会社・仕事を重視	4.9	1.0	5.2	0.0	1.7	3.2

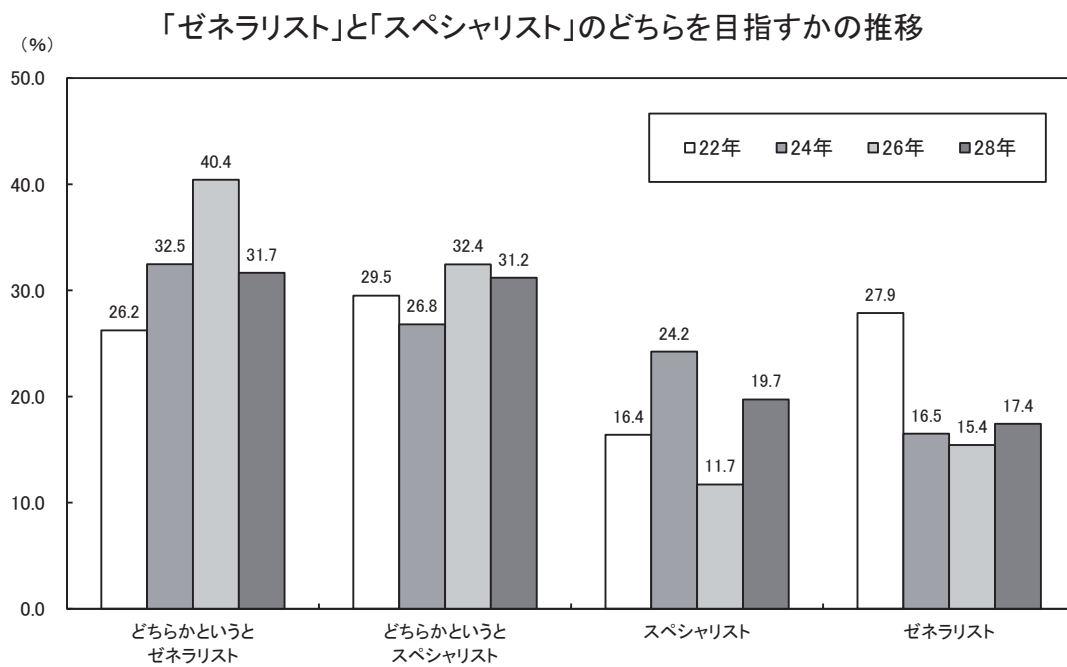
## Q9. 「ゼネラリスト」と「スペシャリスト」のどちらを目指すか

～「ゼネラリスト」、「スペシャリスト」はほぼ同じ割合～

将来、職場で目指すのは、幅広い業務をこなす「ゼネラリスト」か、あるいは専門分野に秀でた「スペシャリスト」かを尋ねたところ、「どちらかというどゼネラリスト」が 31.7%でトップとなった。次いで「どちらかというどスペシャリスト」が 31.2%と僅差で続き、「スペシャリスト」が 19.7%、「ゼネラリスト」が 17.4%の順となった。「スペシャリスト」(19.7%)の割合は前回調査に比べ 8.0 ポイント増加し、「どちらかというどゼネラリスト」(31.7%)は 8.7 ポイント減少した。ゼネラリスト、スペシャリストの志向別にみると、前回調査ではゼネラリスト志向が 11.8 ポイント上回っていたが、今回はほぼ同じ割合となった。

男女別にみると、男性はスペシャリスト志向の割合が高く、女性はゼネラリスト志向が高かった。

学卒別にみると、それぞれ順位、割合にばらつきがみられた。専門学校・短大卒はスペシャリスト志向が 6 割以上となり、「スペシャリスト」(34.1%)の割合が高かった。大学・大学院卒はゼネラリスト志向がスペシャリスト志向を上回った。



### 「ゼネラリスト」と「スペシャリスト」のどちらを目指すか

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
どちらかというどゼネラリスト	② 25.2	① 40.0	② 31.6	25.0	② 36.7	① 31.7
どちらかというどスペシャリスト	① 31.7	② 30.5	① 36.8	② 27.3	① 23.3	② 31.2
スペシャリスト	24.4	13.7	13.2	① 34.1	21.7	19.7
ゼネラリスト	18.7	15.8	18.4	13.6	18.3	17.4

## Q10. 上司に求めるもの

～男性上司には「信頼感」、「指導力」など力強さ、  
女性上司には「優しさ」、「明るさ」、「信頼感」など～

職場で最も身近に接することの多い上司に対して、新入社員が求めているものを尋ねてみた。それによると、男性社員が男性上司に求めているものは「信頼感」(43.8%)がトップとなり、「指導力」(29.8%)、「行動力」(9.1%)などの順となった。また、女性上司には「優しさ」(35.2%)がトップで、「明るさ」(24.8%)、「包容力」(12.3%)などの順となった。

一方、女性社員が男性上司に求めているものは「信頼感」(35.1%)がトップとなり、「指導力」(20.2%)、「決断力」(12.8%)などの順となった。また、女性上司には「信頼感」(30.5%)がトップで、「指導力」(21.1%)、「優しさ」(21.1%)などの順となった。

男女別にみると、男性は男性上司に対して「信頼感」、「指導力」といった頼りがいのあるイメージを求めており、女性上司に対しては「優しさ」、「明るさ」、「包容力」といったメンタルな面での支えを求める項目が目立った。

一方、女性は男性上司に対して「信頼感」、「指導力」、「決断力」といった力強さを求める項目が並んだ。女性上司に対しては「信頼感」、「指導力」といったリーダーシップを求める項目が目立った。

男性新入社員が上司に求めるもの

(単位：%)

男性上司には						女性上司には					
24年		26年		28年		24年		26年		28年	
指導力	33.8	指導力	37.7	信頼感	43.8	優しさ	31.6	優しさ	28.9	優しさ	35.2
信頼感	28.8	信頼感	31.6	指導力	29.8	明るさ	21.5	明るさ	21.1	明るさ	24.6
行動力	10.0	優しさ	9.6	行動力	9.1	信頼感	13.9	包容力	19.3	包容力	12.3
決断力	8.8	包容力	6.1	決断力	8.3	指導力	11.4	信頼感	13.2	信頼感	8.2
優しさ	6.3	決断力	4.4	優しさ	4.1	包容力	8.9	指導力	7.9	指導力	6.6
明るさ	3.8	明るさ	4.4	包容力	1.7	知性	7.6	知性	3.5	知性	6.6
知性	3.8	厳しさ	2.6	知性	1.7	行動力	2.5	行動力	2.6	決断力	2.5
包容力	2.5	行動力	1.8	厳しさ	0.8	決断力	1.3	決断力	1.8	厳しさ	1.6
厳しさ	1.3	知性	0.0	明るさ	0.8	厳しさ	1.3	厳しさ	0.0	行動力	0.8
その他	1.3	その他	1.8	その他	0.0	その他	0.0	その他	1.8	その他	1.6

女性新入社員が上司に求めるもの

(単位：%)

男性上司には						女性上司には					
24年		26年		28年		24年		26年		28年	
信頼感	27.7	指導力	28.8	信頼感	35.1	優しさ	33.9	信頼感	41.1	信頼感	30.5
指導力	26.8	信頼感	20.5	指導力	20.2	信頼感	30.4	優しさ	17.8	指導力	21.1
決断力	14.3	決断力	16.4	決断力	12.8	指導力	18.8	包容力	16.4	優しさ	21.1
包容力	11.6	行動力	13.7	包容力	11.7	包容力	8.0	指導力	12.3	包容力	9.5
行動力	8.0	優しさ	12.3	行動力	8.5	明るさ	3.6	明るさ	8.2	明るさ	8.4
優しさ	8.0	包容力	4.1	優しさ	5.3	知性	2.7	決断力	1.4	決断力	3.2
厳しさ	1.8	明るさ	2.7	明るさ	3.2	決断力	1.8	厳しさ	1.4	行動力	3.2
知性	1.8	厳しさ	1.4	知性	2.1	行動力	0.9	知性	1.4	知性	3.2
明るさ	0.0	知性	0.0	厳しさ	1.1	厳しさ	0.0	行動力	0.0	厳しさ	0.0
その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0

## Q11. 理想の上司を有名人にたとえると

～男性では“熱血”「松岡修造」、女性では「天海祐希」～

新入社員が考える理想の上司を有名人にたとえると、男性上司では元テニスプレーヤーで、現在はスポーツキャスターやCMなどで活躍する「熱血」キャラクターの「松岡修造」がトップとなった。次いでマルチタレントの「所ジョージ」が2位、「有吉弘行」が3位、「明石家さんま」が4位、「水谷豊」が5位となった。また、この調査で常に上位にランクインしている「所ジョージ」は今回も2位となり、根強い人気がみられた。

一方、女性上司では女優の「天海祐希」が4回連続でトップとなった。次いで「篠原涼子」、「吉田羊」、「ローラ」が2位、「和田アキ子」、「水ト麻美」が3位、「仲間由紀恵」が4位、「真矢みき」、「北川景子」、「高橋みなみ」、「菜々緒」が5位となった。ドラマで上司・管理職を演じている俳優のほか、バラエティ番組に登場する司会者・タレントが多くみられた。

ランクインした顔ぶれをみると、メディアの影響が大きいことがうかがわれる。ドラマや映画の中での配役や、団体の中でリーダーシップを発揮する姿、ブログ等での積極的な情報発信などに共感する部分があるのであろう。

理想の上司を有名人にたとえると

	男性上司には			女性上司には		
	24年	26年	28年	24年	26年	28年
1位	所ジョージ 阿部 寛	タモリ	松岡 修造	天海 祐希	天海 祐希	天海 祐希
2位	向井 理	小栗 旬 堺 雅人	所 ジョージ	真矢 みき	和田 アキ子 江角 マキコ	篠原 涼子 吉田 羊 ローラ
3位	桜井 翔 関根 勤	所 ジョージ 水谷 豊	有吉 弘行	篠原 涼子	篠原 涼子 北川 景子 石原 さとみ	和田 アキ子 水ト 麻美
4位	福山 雅治 イチロー	イチロー ビート たけし 竹野内 豊 福山 雅治	明石家さんま	仲間 由紀恵 江角 マキコ	真矢 みき	仲間 由紀恵
5位	明石家さんま 北野 武 渡辺 謙 池上 彰 速水もこみち 西田 敏行 水谷 豊	安倍 晋三 有吉 弘行 坂上 忍 櫻井 翔 高田 純次 本田 圭佑 榎 太一 柳葉 敏郎	水谷 豊	香里奈	仲間 由紀恵 佐々木 希 新垣 結衣	真矢 みき 北川 景子 高橋 みなみ 菜々緒

## Q12. 初月給の使いみちは（複数回答:いくつでも）

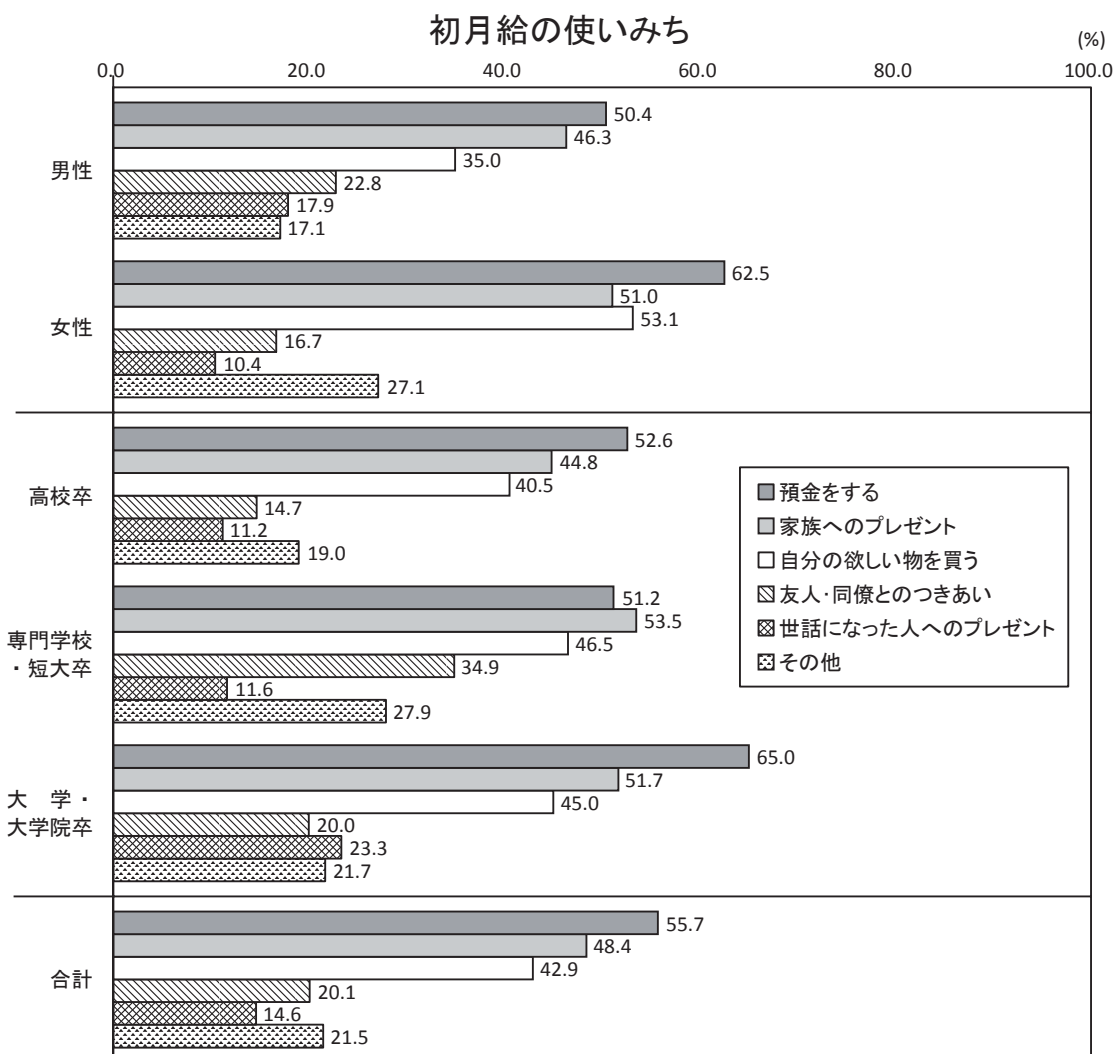
～堅実な姿勢とともに、家族への感謝～

初月給をもらったなら何に使うかを尋ねたところ、「預金をする」が55.7%でトップとなった。次いで「家族へのプレゼント」が48.4%、「自分の欲しいものを買う」が42.9%、「友人・同僚とのつきあい」が20.1%、「世話になった人へのプレゼント」が14.6%の順となった。

男女別にみると、女性は上位3項目の割合が男性に比べて高く、「自分の欲しいものを買う」(53.1%)は2位となった。

学卒別にみると、構成割合に幾分ばらつきがみられた。専門学校・短大卒は「家族へのプレゼント」(53.5%)がトップとなり「友人・同僚とのつきあい」(34.9%)の割合が高かった。大学・大学院卒は「預金をする」(65.0%)が高い割合となった。

初月給の使いみちに関しては、堅実な姿勢とともに、世話になった家族への感謝の気持ちがうかがわれた。





## Q13. 仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術は

～「専門的資格」がトップ～

新入社員が仕事をするにあたり、身につけたいと考えている知識・技術(3項目まで選択)は「専門的資格」が56.9%でトップ、次いで「語学力」が45.4%、「情報処理に関する知識・技能」が39.9%、「営業力」が31.7%などと続いた。「専門的資格」は前回調査では2割程度であったが今回調査では大幅に増加し、トップとなった。

男女別にみると、男性は「高度な工学系知識・技術」(38.5%)が3位となった。一方、女性は「語学力」(52.1%)がトップとなり、「情報処理」(43.8%)、「経理・財務に関する知識」(27.1%)の割合が高かった。

学卒別にみると、専門学校・短大卒は「専門的知識」(70.5%)、「工学系知識・技術」(36.4%)の割合が高かった。大学・大学院卒は「経理・財務」(35.6%)が高かった。

仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術(3項目まで選択)

(単位:%)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
専門的資格	① 61.5	② 51.0	① 47.0	① 70.5	① 66.1	① 56.9
語学力	② 40.2	① 52.1	② 45.2	② 50.0	③ 42.4	② 45.4
情報処理に関する知識・技能	36.9	③ 43.8	③ 39.1	③ 36.4	② 44.1	③ 39.9
営業力	32.0	31.3	34.8	22.7	32.2	31.7
経理・財務に関する知識	23.0	27.1	22.6	15.9	35.6	24.8
高度な工学系知識・技術	③ 38.5	7.3	24.3	③ 36.4	16.9	24.8
法律に関する知識	10.7	13.5	10.4	11.4	15.3	11.9
特に身につけたいものはない	1.6	2.1	3.5	0.0	0.0	1.8
その他	0.8	3.1	1.7	2.3	1.7	1.8

次に、その知識・技術を身につけるために行なっていること(2項目まで選択)について尋ねたところ「独学で専門書など購読」が48.4%でトップとなった。次いで、「特に何もしていない」が37.4%、「セミナーなどへの参加」が27.5%などと続いた。「独学で専門書」は前回調査では4割を下回り2位であったが今回調査では約10ポイント増加し、トップとなった。

男女別でみると、男性は「特に何もしていない」(40.0%)の割合が女性を上回った。また、女性は「通信講座の受講」(12.2%)が男性を上回った。

学卒別でみると、専門学校・短大卒は「独学で専門書」(57.7%)、「特に何もしていない」(42.5%)の割合が他に比べて高かった。大学・大学院卒は「セミナーなどへの参加」(32.7%)が高かった。

その知識・技術を身につけるために行なっていることは(2項目まで選択)

(単位:%)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
独学で専門書など購読	① 47.0	① 50.0	① 42.2	① 57.5	① 51.9	① 48.4
特に何もしていない	② 40.0	② 34.1	② 35.6	② 42.5	② 36.5	② 37.4
セミナーなどへの参加	③ 29.0	③ 25.6	③ 26.7	③ 22.5	③ 32.7	③ 27.5
通信講座の受講	9.0	12.2	11.1	5.0	13.5	10.4
専門学校への進学	3.0	0.0	2.2	2.5	0.0	1.6
その他	1.0	2.4	1.1	2.5	1.9	1.6

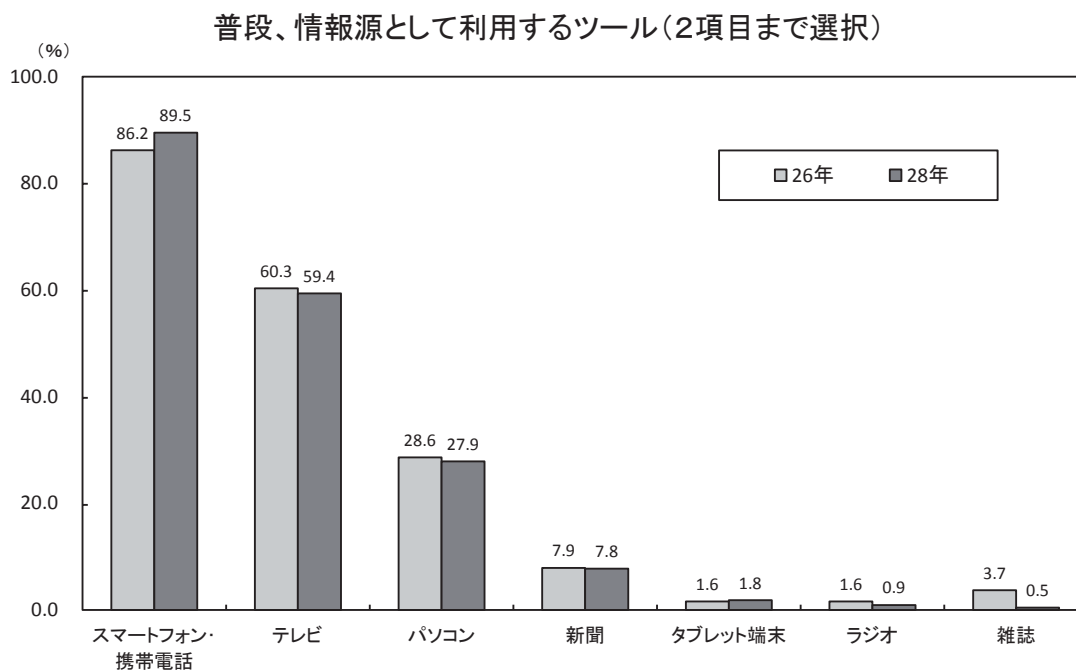
## Q14. 普段、情報源として利用するツールは

～「スマートフォン・携帯電話」が主要な情報源～

現代の情報社会の中で、新入社員が情報源として利用しているツールは「スマートフォン・携帯電話」が89.5%でトップとなった。次いで「テレビ」が59.4%、「パソコン」が27.9%、「新聞」が7.8%などと続いた。「スマートフォン・携帯電話」は前回調査と同様、若者の主要な情報源となっている。一方、活字メディアの新聞、雑誌は1割以下にとどまり、タブレット端末、ラジオは2%未満であった。

男女別にみると、大きな差はみられなかったが、男性は「パソコン」(33.1%)、「新聞」(10.5%)の割合が高かった。一方、女性は「テレビ」(67.4%)の割合が高かった。

学卒別にみると、それぞれ大きな違いはみられなかったが、専門学校・短大卒は「スマートフォン・携帯電話」(95.5%)、「テレビ」(68.2%)の割合が他に比べて高く、大学・大学院卒は「パソコン」(40.0%)が高かった。



普段、情報源として利用するツール(2項目まで選択)

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
スマートフォン・携帯電話	① 89.5	① 89.5	① 88.7	① 95.5	① 86.7	① 89.5
テレビ	② 53.2	② 67.4	② 57.4	② 68.2	② 56.7	② 59.4
パソコン	③ 33.1	③ 21.1	③ 23.5	③ 22.7	③ 40.0	③ 27.9
新聞	10.5	4.2	7.0	9.1	8.3	7.8
雑誌	0.8	0.0	0.9	0.0	0.0	0.5
タブレット端末	2.4	1.1	0.9	2.3	3.3	1.8
ラジオ	1.6	0.0	1.7	0.0	0.0	0.9
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## Q15. 自分をPRする言葉は

～「明るい」がトップ、次いで「まじめ」、「楽観的」など～

新入社員が自分をPRする言葉は「明るい」が33.0%でトップ、次いで「まじめ」が17.4%、「楽観的」が13.3%、「忍耐力」が10.1%などの順となった。前回調査に比べ「明るい」とする割合の増加が目立っており、他の項目については小幅な変動にとどまった。

男女別でみると、女性は「明るい」(39.4%)、「まじめ」(20.2%)、「楽観的」(17.0%)の割合が男性に比べ高かった。一方、男性は「忍耐力」(12.1%)が3位となり、「協調性」(10.5%)、「誠実」(10.5%)が女性に比べ高かった。

学卒別でみると、順位、割合にばらつきがみられた。高校卒は全体とほぼ同じ順位、割合となった。専門学校・短大卒は「明るい」(45.5%)の割合が高かった。大学・大学院卒は「まじめ」(18.3%)がトップとなり、「明るい」、「楽観的」、「協調性」、「誠実」がほぼ同じ割合となった。

自分をPRする言葉

(単位: %)

	男性		女性		高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
明るい	① 28.2	① 39.4	① 36.8	① 45.5	② 16.7	① 33.0		
まじめ	② 15.3	② 20.2	② 19.3	③ 11.4	① 18.3	② 17.4		
楽観的	10.5	③ 17.0	③ 12.3	② 13.6	③ 15.0	③ 13.3		
忍耐力	③ 12.1	7.4	③ 12.3	4.5	10.0	10.1		
協調性	10.5	5.3	3.5	9.1	② 16.7	8.3		
誠実	10.5	3.2	3.5	6.8	③ 15.0	7.3		
適応力	6.5	2.1	3.5	6.8	5.0	4.6		
努力家	2.4	4.3	4.4	2.3	1.7	3.2		
体力	4.0	1.1	4.4	0.0	1.7	2.8		

24年男性

まじめ	24.7
楽観的	17.3
明るい	14.8
努力家	9.9
誠実	9.9
忍耐力	7.4
適応力	6.2
体力	4.9
協調性	4.9

26年男性

明るい	21.9
まじめ	15.8
忍耐力	14.9
楽観的	13.2
適応力	8.8
体力	8.8
誠実	6.1
努力家	6.1
協調性	4.4

28年男性

明るい	28.2
まじめ	15.3
忍耐力	12.1
楽観的	10.5
協調性	10.5
誠実	10.5
適応力	6.5
体力	4.0
努力家	2.4

24年女性

明るい	30.1
努力家	15.0
楽観的	14.2
まじめ	13.3
忍耐力	8.8
誠実	6.2
体力	5.3
協調性	5.3
適応力	1.8

26年女性

明るい	29.7
まじめ	25.7
忍耐力	10.8
努力家	10.8
楽観的	9.5
誠実	5.4
協調性	5.4
適応力	2.7
体力	0.0

28年女性

明るい	39.4
まじめ	20.2
楽観的	17.0
忍耐力	7.4
協調性	5.3
努力家	4.3
誠実	3.2
適応力	2.1
体力	1.1

## 社会人となり、改めて感じることは

最後に、「社会人となり、改めて感じていること」を自由に述べていただいた。今回も社会人としての責任感に関する記述が多く、学生と社会人との環境の大きな違いに戸惑いながらも決意を新たにしている様子が見えられた。

- 限られた時間の中で自分のパフォーマンスを発揮・維持することの重要性和難しさを感じている。(高校卒、男性)
- 一つ一つの行動、言葉の責任の重さを感じた。働いてお金をもらうということの大変さを痛感している。(高校卒、女性)
- 幅広い年代の方々が勤めており、コミュニケーションの重要性を感じた。また、自発性と責任感が必要と思った。(専門学校卒、男性)
- 社会人になると自分の行動一つ一つに重い責任があることを、実際身をもって感じた。(専門学校卒、女性)
- 学生とは違い、一つ一つの事に責任感が生まれる。上司との会話を通して、自分のすべき事は何かを見極めるのが大事だ。(大学卒、男性)
- 社会人のやるべきことは会社を運営していくための歯車の一部であり、責任が伴っていくのだと痛感した。(大学卒、女性)

人間関係、生活の変化に関しては、これまでの対等な仲間づきあいから組織の上下関係、あるいは自由な生活から仕事中心の生活への変化に戸惑っている様子が見えられた。

- 社会人としてのマナーが欠落しているなど感じたので、これから勉強していかなければいけないと思う。(専門学校卒、男性)
- 休日が貴重に感じる。休日はリフレッシュして次の日から仕事を頑張りたい。(専門学校卒、女性)
- 社会人になって職場環境も変わったので、周りの人への気遣い、思いやりを持って働いていきたいと思う。(短大卒、男性)
- 一日は短く、一週間は長い。休日は気がいたら終わってしまう。学生とは時間の重要性がまったく違う。(短大卒、女性)
- 学生のときには生活リズムが不規則だったが、社会人になるとそうはいかない。(大学卒、男性)
- 学生まで面倒だと思っていたメイクなど、身だしなみの重要性について強く実感しております。(大学卒、女性)

一方、環境の変化に悩みながらも、新入社員らしい初々しさを社会人として踏み出していこうとする姿勢もみられた。

- 仕事の幅の広さに驚いた。人と人との関わりが大切だとわかった。  
(高校卒、男性)
- 青森県内はもちろん、全国のニュースを確認し、情報を得ていきたい。  
(高校卒、男性)
- マナーのある社会人になりたいと思います。そして、自分が先輩になったときに後輩に教えてあげられるよう成長していきたい。(高校卒、女性)
- まず、知識が不足していることを感じており、学び続けていこうと思っている。しかし、その気持ちが焦りにもみられることもあるようなので、気をつけていきたい。(大学卒、男性)
- お金を稼ぎ、経済的に自立することの難しさを感じている。今まで学費や生活費を工面してくれていた親に感謝したい。(大学卒、女性)
- 仕事を学ぶには実践するのみで、失敗をしないと学ばない。自分の思いよ  
うで仕事は楽しいと思える。(大学卒、女性)

そのほか、悩みや助けを求めているような、我々先輩社会人が考えさせられる意見もみられた。

- 自分が思っていたほど社会は甘くない。(高校卒、男性)
- 学生とは違い、わからない事を自分から質問していかないとわからないま  
まになってしまう。(高校卒、男性)
- 自分の失敗で会社全体に損失を与えてしまうことも学んだ。  
(高校卒、男性)
- 社会人としてのマナーや礼儀、挨拶を毎日必要とされている。仕事で覚え  
る内容が多く、全部覚えられるか不安。(専門学校卒、女性)
- 本来やりたかった職に就く事が出来ず、自分でも思いもしなかった職に就  
いたので、これからも続けていけるかどうか不安なところがある。  
(大学卒、男性)
- 人生の半分の時間を仕事にとられるんだなと改めて感じた。  
(大学卒、女性)

以上



---

発行日 平成28年6月27日

発行 株式会社青森銀行  
青森市橋本一丁目9番30号  
電話 017 (777) 1111

作成 一般財団法人青森地域社会研究所  
青森市新町二丁目2番7号  
電話 017 (777) 1511

---

印刷 北方商事株式会社  
青森市港町二丁目6番6号  
電話 017 (744) 1555

---

